社　会　題材「『日本』誕生の物語」　実施学年１年

全員が対話に参加できる問い

「倭国の独立を守るためには、自立優先か？文化優先か？」

７世紀後半、倭国は、白村江の敗戦によって、巨大国家「唐」の脅威を、身をもって感じつつ、一方で、その支配下に取り込まれることなく「独立」をめざす道を模索する必要に迫られる。膨張する唐と距離を置き、まずは国としての自立性を高めることを優先するか。唐に近づき、律令など唐の先進文化を取り入れることを優先するか。

この問いについて、立場を取らせて対話させる中で、生徒は、東アジア諸国との関係の中での我が国の立ち位置や、それまでの大和政権の統治体制及びその後の律令に基づく中央集権体制の構築の必要性などを根拠にして、自らの選択を語ったり、相手の選択について問うたりする（教科の本質）。また、選択型の問いにしたことに加えて、両立できないジレンマを選択肢に内包させることで、簡単には解決できない困難さ（葛藤）を経験させ、知識量の差によらない対等性のある対話に全員を引き込み、より本気で課題に取り組もうとする姿勢につなげた。

単元構成

時間	◆学習内容と問い（○）は全員が対話に参加できる問い、（☆）は学びをさらに深める問い
1	◆資料にもとづいて、近未来における中国の成長を実感し、東アジアにおける日本の未来について自己に引きつけて考える。 2050年、超巨大国家となった中国。「日本」は独立国として平和でいられるか【現代的文脈】
2	◆唐の成立と高句麗・百済、唐・新羅のそれぞれの同盟関係、国内の乙巳の変について、資料から確認し、７世紀の緊張する東アジア情勢に気づく。 どうすればいい？倭国が唐に飲み込まれないために…
3	◆資料から白村江の敗戦の被害状況と古代山城の築城にともなう国内の危機感に気づく。また、白村江の敗戦から倭国の独立のためには律令による中央集権体制が急務であることに気づく。 ７世紀の東アジアで倭国が独立を保つために何が必要か
４・５	◆東アジア情勢の変動（670年の唐新羅戦争）を資料で確認し、もしここで唐から倭国に援軍要請があったとき、自分が大王ならどう決断するか、選択する。 ◆安全性については共にリスクがある中で、今、倭国が独立を守るため優先すべきなのは、自立と考えるか、文化と考えるか、に論点をしぼる。 もしこのとき唐からの援軍要請があった場合、倭国の独立のために要請を断るか？受け入れるか（○）
6	◆自立優先か、文化優先かの選択のジレンマに気づかせ、倭国の外交的選択の厳しさに気づく。 ◆資料から、援軍要請を断りつつ、大宝律令を完成させている事実を知り、倭国の外交的選択を考える。 倭国の独立を守るためには、自立優先か、文化優先か（○）
7	◆激動の７世紀における倭国の外交的選択が、独立国「日本」誕生に与えた影響に気づく。 ◆単元始めの問いを振り返り、独立国「日本」誕生を自己に引きつけて語り直し、歴史を学ぶ意味や価値を物語る。 670年～701年、遣唐使派遣せずに大宝律令完成！倭国はどうやって文化を取り入れたのか（☆） ↓ なぜ「倭国」から「日本」に国の名前を変えたのか

単元のねらい

① 歴史に関わる事象（倭国から「日本」への国号の変化）の意味や意義を、古代国家の形成（中央集権化、律令国家化）の観点から自分の言葉で説明することができる。（資質・能力「思考・判断・表現」）

② 倭国の外交的選択に対する新たな気づきや「日本」誕生に対する認識の変容を通して、「現在、東アジアで独立している日本」等の現代社会に対する見方・考え方を再構成し、未来社会についてのあり方を考えることができる。（資質・能力「学びに向かう力・人間性等」）

何ができるようになったか

＜単元のねらい①＞ 次の問いに対する事後レポートの記述を分析し、評価した。

問い．なぜ「倭国」から「日本」に国の名前を変えた（変わった）と思いますか。

【評価基準】

内容①・・・７世紀後半の東アジアで独立するために律令制（中央集権化）が必要であること

内容②・・・律令国家として成立したという意味での「日本」という記述があるもの

A：①と②が両方とも自分の言葉で述べられている。 （２３名（60.5%）n=38）

私は、倭国と日本の違いについて・・・②律令国家になり、まとまった国になったと考えます。①そのような国をめざした理由は、資料6，7，8，9にあるような白村江の戦いで倭国が壊滅的な状況になったからだと思います。・・・①倭国は白村江の戦いで資料9にあるように律令国家の必要性を知りました。その結果、②白村江の戦いから律令国家になるまで長い間があったけれど唐と同じような律令の整ったまとまった国になったと思います。百済・新羅から文化を取り入れ、唐などと比べ、おくれた国から唐と同じようなしくみの国になったところがすごいなと思いました。・・・

B：①または②が自分の言葉で述べられている。 （１２名（31.6%）n=38）

C：①も②も不明確。 （３名（7.9%）n=38）

＜単元のねらい②＞ 次の問いに対する事後レポートの記述を分析した。

問い．あなたがこの歴史の学習から学んだこと、考えたこと、意味、価値を感じたことを自由に書いてください。

S：学んだことから、現代社会についての捉え直しが具体的に語られており、かつ、未来社会についての語りも見られる。（８名（21.1%）n=38） ※実線：現代社会の捉え直し　二重線：未来社会についての語り

日本はこれまでに様々なピンチを乗りこえてきたことが分かり、日本てすごいんだなと思った。また、日本は今、何かピンチを切り抜ける策を考えなければ滅びてしまうかもしれないと感じた。いつかは自分たちが社会を支える側になるので、このような事実を知ることはとても大切だと感じた。また、もっとこのようなことを学び、将来に生かしていきたいと思う。

A：学んだことから、現代社会や自己についてのとらえ直しが具体的に語られている。

（10名（26.3%）n=38）

B：学んだことからの語りが、過去に対する認識のとらえ直しにとどまっている。または、現代社会や自己のとらえ直しは曖昧である。 （14名（36.8%）n=38）

C：学んだことから、現代社会や自己のとらえ直しが、不明瞭である。（３名（7.9%）n=38）

数　学　単元名「資料の活用」　1年

全員が対話に参加できる問い

「糖尿病ワースト県の原因は本当にうどんなのか？」

地元香川の糖尿病ワースト県は、数年前からテレビ CM やネット上等で話題となっている。新聞報道によると、2014 年に小学４年生を対象に行った血液検査で、肝機能・脂質・血糖値それぞれに異常を示した子どもが、約１割にものぼることも報じられた。ネット上では、「うどん県だから･･･。」というコメントも多く見られ、生徒たちにとって喫緊の話題である。そこで、はじめに、「糖尿病ワースト県の原因は本当にうどんなのか？」という問いを発し、配布された資料を度数分布表やヒストグラム、度数折れ線に表して考察を行う中で、糖尿病の原因が本当にうどんなのかを探る。また、糖尿病になりにくい県との違いを比較する中で、自分たちで持ち寄った新たな資料をもとに対話を始める。そうした活動の中で、身の回りで起きている問題について数学を通して解決し、自分なりの改善策を提案していく。全体交流の場面での質疑応答をくり返す中で、自己や他者の主張や判断が客観的な事実に基づいているかを吟味する。そして現実場面を想定して、運動不足解消や栄養バランスの取れた食の在り方など、糖尿病を防ぐための最適解を見出し努力しようと考える。最終的には、課題に対して感覚的に捉えていた改善策から、数学を根拠としたより確固たる改善策へと変わり、生徒たちがこれからの自分の生活に役立てたいと思うようになる。

単元構成

時間	◆学習内容と問い（○）は全員が対話に参加できる問い、（☆）は学びをさらに深める問い
1・2	◆資料を度数分布表やヒストグラムに整理したり、相対度数を用いたりして、その傾向を読み取る。 香川県の 2004 年 3 月と 2017 年 3 月では、どちらが温かいのか（○）
3・4	◆新体力テストの 50m走のデータをもとに、代表値や範囲を用いて、資料の特徴を捉え、説明する。 自分のクラスとＪ中学校では、どちらの足が速いのか（○）
5・6	◆レストランの顧客アンケートデータをもとに、平均値、中央値、最頻値などの代表値を使って説明し、最適解を導き出す。 レストランのハンバーグの量は、何ｇが適量か
7･8･9	◆目的に応じて、資料を収集し、ヒストグラムや代表値などを用いて、資料の傾向や特徴を捉え、改善策や解決方法を考える。 糖尿病ワースト県の原因は本当にうどんなのか（○） うどん以外の原因はあるのか（☆）
10・11	◆近似値、誤差、有効数字をもとに、身の回りの数値の意味を考える。 自分の本当の身長は何 cm なのか

単元のねらい

① 目的に応じて資料を収集し、度数分布表やヒストグラムなどに表すことで整理し、代表値や資料の散らばりに注目してその資料の傾向を批判的に読み取ることができる。自分の考えをレポートにまとめ、他者に説明することができる。（資質・能力「思考・判断・表現」）

② 資料を表やグラフに整理することに関心をもち、その必要性と意味を考えたり、その傾向を読み取ったりしようとする。（資質・能力「学びに向かう力・人間性等」）

何ができるようになったか

＜単元のねらい①＞ 単元学習後に評価テストを行い、分析した。

評価テストの結果（図1）から、知識・技能、思考力・判断力・表現力の両観点共におおむね満足できる生徒の割合（正答率4割以上）が約90％に達しており、『資料の活用』領域における資質・能力は育成できたものと考える。特に、思考力・判断力・表現力に関するデータの方が、高い数値を示した要因として、探究的な学習課題で協働的に課題解決に取り組んだ成果の表れだと考えている。

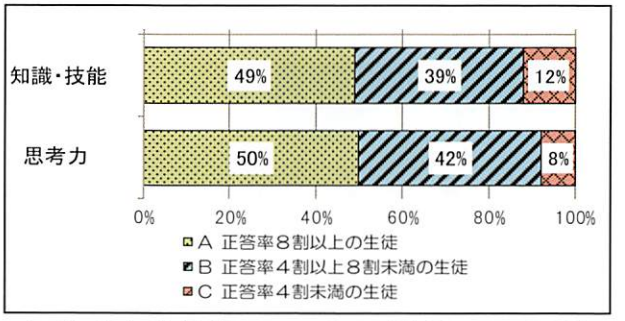

図1【事後評価テストの結果 n＝118】

＜単元のねらい②＞ 単元学習後の振り返りレポートの記述を分析した。

◇ グラフは簡単だと思っていたけど、実は意外と複雑で平均をとればいいと言うものでは無いことがわかった。グラフの数字だけを見るのではなく、重ねてみるとよりわかりやすくなったり、平均値以外の代表値で説明する方が説得力をもてたりした。

◇ 数字だけでなく、ヒストグラムは形状から散らばりを見ることができるので便利である。糖尿病の授業を通して、今後自分たちの生活の中でデータを読み取る力はとても重要であると思った。他のことがらでもグラフ化して考えてみたい。

◇ 私は、表やグラフは数が多くてあまり好きではありませんでしたが、ヒストグラムや度数分布表を習うと簡単に多くの数がまとまった上にグラフでは、数が大きく変化しているところなどがわかりやすく、私の中では、使いやすいものへと変わっていきました。

図2【振り返りレポートの生徒の記述例　抜粋】

記述内容から、学習意欲の高まりが見られたり、新たな問いや疑問が生まれ、探究心の向上が見られたり、数学化の良さを実感したりする姿勢が見られたりした生徒の割合は、88.2％（n＝119）であった。また、事後アンケートでの「この授業で、自分の考えが深まったと感じたか？」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は、96.2％（n＝118）であった。